

⑤

1140

通商局

特選郵券第四〇一號

昭和七年三月二十九日

福岡縣知事 中山佐之助

第二 認察

〇

昭利七年四月 五日接覽

排日排貨手帳

7.49

亞細亞局

内務大臣 鈴木善之助

警視長 神尾嘉平

警視長 神尾嘉平

兵庫 京都 高島 各支隊

各支隊 隊長 官 殿

日清汽船会社ノ近況ニ関スル件

236

東京丸内日清汽船株式會社所有

汽船 巴陵丸 (二四二七九四)

右ハ今回大阪商船会社ノ備取トナリ本月廿八日神戸ヨリ管下門司

入港即日朝鮮西湖津ニ向ケ去帆セルヲ庭泊中船長ニ水緊即

1140

ハ標記ノ件ニ関シ左記ノ如ク語レリ

記

本會社ハ從來千八隻ノ所屬船ヲ使用シテ支那沿岸ニ於ケル貨客ノ運搬ヲナシ居リタルカ昨年東排日激化ト共ニ全ク事業不振ニ陥リ内十數隻ハ上海ニ繫船シ八隻ハ御用船トナリ其ノ他ハ各地方ニ回航シタル有様ナリ而シテ本船ハ昨年十月以來撃船シ居タルカ今所ニハ内外船十數隻撃船シ居ル有様ニテ今回ノ上海事變勃發スルヤ本船ニハ支那船員六十名乗船シ居リタルカ彼等ニ対シテハ支那十九路軍ヨリ強制下船ヲ要求シ之ニ應セサル時ハ拳砲ヲ用テ強迫スルト共ニ盛ニ拳砲セルヲ以テ彼等ハ直ニ本船ニ射人ヲ狙撃スル益々危險迫ルヲ以テ一時本船ヲ放棄シテ領事館其他ノ安全地ニ避難シタリ然レテ其ノ後事件一段落ヲ為ケタルニ本船ハ策組員十名ヲ神戶海員組合ヨリ

S. 1.1.1.0 - 64 401 1623 0235

400

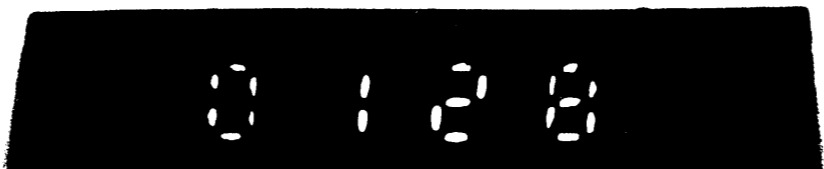
S. 1.1.1.0 - 64 1622 400 0234

一 船隻ヲ遊末セシ今四ノ一ヲ神守ニ向ヒタル有様ナリ現  
 在ニ於テハ所屬船中八隻ハ就航シ居ルモ其他ハ未ダ上海  
 ニ繋船シ居ル有様ナリ

一 船隻ノ遊末セシ今四ノ一ヲ神守ニ向ヒタル有様ナリ現  
 在ニ於テハ所屬船中八隻ハ就航シ居ルモ其他ハ未ダ上海  
 ニ繋船シ居ル有様ナリ

一 船隻ノ遊末セシ今四ノ一ヲ神守ニ向ヒタル有様ナリ現  
 在ニ於テハ所屬船中八隻ハ就航シ居ルモ其他ハ未ダ上海  
 ニ繋船シ居ル有様ナリ

402 1624 0236  
 S. 1.1.1.0 - 64



1140

通商局  
外務部

昭和七年四月二日

大政府知事

齋藤宗宣

昭和七年四月 五日 齋

亞細亞局

内務大臣 鈴木喜三郎殿  
外務大臣 芳澤謙吉殿

警視廳、北海道、神奈川、愛知各長官殿  
兵庫、山口、福岡、長崎

北米太平洋沿岸在留日支人  
間ノ軋轢ニ関スル件

日本郵船株式會社所有汽船

横 浜 丸 (六一四三號)

船長 高畑 藤一

1140

右ハ棉花等揚荷ノ為客月三十日午後一時二十五分  
北米沙市ヨリ大阪へ入港セルカ標記ノ件ニ関シ尤記  
談話ヲナセリ

記

太平洋沿岸在住ノ支那人ハ上海事件カ此俟終末  
スルコトヲ寧ク快シトセス日本ヲシテ歐洲大戰後ニ於  
ケル独逸ノ如ク疲弊セシメンコトヲ希ヒ種々ナル「アジ  
ア」ヲ揚ケテ排日思想ヲ煽動シツアリシカ最近ニ於  
テハ支那人ハ勿論米國人其他在留外國人ニ至ル迄  
日貨排斥ヲナス者多ク在留日本人商店ハ頗ル

S. 1.1.1.0 - 64 404 1626

0238

S. 1.1.1.0 - 64 403 1625

0237

疲弊ヲ来シ殊ニ日本人カ殆ント独占的聖管ニアリシ  
晚香坡ノ臭市場ノ如キモ日本高品ノ「ホイコツト」  
ニ遭ヒタメニ市場 營業者及ヒ漢支ハ目下夏季獺  
期ヲ控エテ勘ラス不安ノ念ニ駆ラレ居レリ 云々  
右及申(通)報候也

S. 1.1.1.0 - 64

405

1627

405

0239

1140

亞細亞局  
外務部

外務部第八八〇號

第一課

昭和七年四月八日 撥

昭和七年四月七日

警視總監大野綠一郎

内務大臣鈴木喜三郎殿  
外務大臣芳澤謙吉殿

北海道、秋田、宮城、千葉、神奈川、兵庫、  
愛知、京都、大阪、廣島、岡山、福岡、長崎

各廳、府、縣、長官殿

関東、朝鮮各警務局長殿

支那本國ヨリノ左傾反日

宣傳物郵送配布ノ件

1140

首題ニ関シ三月三十一日外務部第七八四號 既報ノ  
處其後更ニ別記内容ノ如キ

一 現 實 (第一卷十二號)

一 民衆週報 (第二二、三二號合刊)

ト題セル左傾反日宣傳物ヲ在京民國留學生宛  
本國ヨリ郵送配布アリタリ  
右及申(通)報候

290

分類 1.1.1.0-25-1

⑤

上海ニ於テハ日支衝突事共係第一件  
排日宣傳物ノ係

S. 1.1.1.0 - 64

407

1629

0241

S. 1.1.1.0 - 64

406

1628

406

( 0240

1140

中華民國二十一年一月二十三日

現 實 第一卷 第十二號

上海金神父路花園坊九號現實實通報社

(四六版改紙活版刷十六頁支那文)

内 容 目 次

- (一) 眞の民意とは何か？
- (二) 饒大場印象記 (下記訳出)
- (三) 世界恐慌の原因
- (四) ベルサイエ体制と帝國主義戦争
- (五) ビルマ華僑とビルマ圓卓會議

則 鼎 則  
毛 宣 化  
錦 則 新 人

S. 1.1.1.0 - 64 408 1630 0242

1140

- (六) 北平エスペラント聯盟成立宣言 (下記譯出)
- (七) 怪光四散の中國
- (八) 徐州ステーションの一瞥
- (九) ソンガイエトロシヤ生活實記

錦 尊 周  
新 文 人  
目 次 了

S. 1.1.1.0 - 64 409 1631 0243

(二) 競犬場印象記

本文

鼎新

一、トロツキ一の面皮の厚さは何程あるか？

革命の火花に焼かれた犬の毛の様はトロツキ一が資本主義の走狗へと転落して以来資産階級の愛顧を受けて肉肥り、欧米の資産階級は多額の金銭を以て彼を買収して、労働大衆の耳目を眩ます毒が入として居る。最近彼は次の様な事を謂て居る。

「資本主義と社会主義両制度間の覇権奪取の六闘争は独逸に表現されて居る。若し資本主義がファシストに因つて勝利を得れば社会主義は掃蕩される」と又「ファシストの独逸政府が単独でソ連に宣戦するよりは「ポーランド」

242

「ローマニア」及「ポーランド」の沿海諸國及日本は独逸と同じ戦線に立ち、ソ連は悲むべき孤立に陥るであらう」と。全世界の資産階級は必すこの尻の様な言葉に喝采するであらうが！

トロツキ一は二つの不同の社会制度の闘争は覇権争奪の闘争であり、彼は根本的に資本主義が社会主義を攻撃する戦争の危機を一手で遮る事が出来ると考へて居る。

日本がソ連に對して挑戦しても彼は絶対に憤怒して居る大衆に之を知りしめる事は出来ない。又各國労働大衆が帝國主義のソ連攻撃闘争及資産階級に反對し、之に因りソ連攻撃戦争勃発が遅れども、彼の様な者は叛乱的大衆に知りしめる事は出来ない。事實上彼は資産階級に類

411 1633 ( 0245

410 1632

0244

を下ホフアシスト最後、其の手を用いてソ聯を攻撃し、社會主義を掃蕩せん事を請求して居る。之は總ての資産階級國家が聯合してソ聯を攻撃する事に因つて、ソ聯を悲惨な孤之の運命に陥れんとするものである。

全世界の勞苦兄弟等よ、この毒ガスの様な屁は革命の烈火に倣つて焼却されて居るから、將來歴史博物館にトロツキ一の犬の頭骸骨として陳列され、三才の小革命兄弟等は、博物館の解剖主任に向つて「トロツキ一の面皮の厚さは何程あつたか」と尋ねるであらう。

中國のトロツキ信徒等よ、

お前等が再度統治階級の尻を大切にするならばお前等の恩師の新記録を突破するだらう、

(六)北平エスペラント同盟成立宣言

各帝國主義は其の最期の喘ぎを延長せんが爲めに、一面では共同戦線を張つて一層露骨に弱小民族及勤勞大衆を攻撃し、又一面では彼等相互間の利害的衝突に因つて、今や最も悲惨な第二次世界大戦を誘発せんとして居る。此時全世界被壓迫大衆が決然として一齊に蹶起する事は即ち我々の切迫した緊急要求であると、何人も皆痛感する處である。

從來支配階級は各民族各部族間の言語文字が非常に隔絶して居ると謂ふ弱兵を利用して、事毎に離間策を弄して被壓迫階級の聯合戦線を攪乱し、且頗る諒解に苦しむ文化を利用して愚民政策を敢行し、以て支配階級に對する反抗をば緩和して居る。

4/2

S. 1.1.1.0 - 64

1634

0246

412

0247

4/3

S. 1.1.1.0 - 64

1635

413



故に我々が支配階級のこの陰謀毒計を打破して真に被壓迫的地位から離脱するには、各民族間を連絡し大衆文化を向上せしめる武器を獲得する事が最も重要である。今や最も大衆化合理化したエスペラントが勇躍的に発展して居る事は、決して突飛的な現象ではなく、全く社会的根拠に由る事である。

エスペラントは現今科學、教育、文學、商業各方面で實際的に採用されて居り、國際科學者の團體、實業家旅行家の組織、翻訳創作の出版機關及其他エスペラントを宣傳普及する結社は数々に達し又歐米各國の如きは一般的に演劇、講演、ラジオ放送等にもエスペラントを使用して居る有様である。殊に注目すべきは、世界大戰後社會運動に廣くエスペラントを應

用するに至つた事である。即ち革命軍隊、互濟會、ボーイスカウト、消費組合、國家通信機關及其他革命文化團體は皆このエスペラントを國際的團結の武器として居る。尚目下E、K、L、E、R、D(世界エスペラント文學出版組合)は革命の理論及實踐の書籍を之に依つて大々的に出版する事を計劃して居る。

元來中國の大衆は帝國主義及其走狗集團の壓迫下に呻吟し、寒飢交々逼る深淵に沈みつゝあるが、今や全國の大衆は毅然勇躍して支配階級の根強い頑固な鋼鐵の如き束縛の鎖を打ち切りつゝある。但しこの偉大なる任務を急速に實現するには、全國及國際的全力を集中する事が必要である。然るに中國は經濟發展が不均等であり、且言語文字も千

S. 1.1.1.0 - 64

1637 415

0249

S. 1.1.1.0 - 64

414 1636 414

( 0248

差万別であるから、國際的握手は極めて困難であり、又全國大衆が完全に團結する事も容易ではない。故にエスペラントは中國の地位から見ても重要なものであり、従つてエスペラント運動を大衆中に深入せしめる事は我々社會運動上の緊急任務の一である事を我々は一層痛感する處である。

革命戦線に之つ親愛ある兄弟等よ！

我々がこの有力な武器を獲得すれば必ず人間搾取制度の撤廃も、真に平和な理想的社會の實現も近き將來に於て實現され得るものである。

我々は固く握手してこの新興エスペラント運動に参加又は贊助しようではないか！

一九三二年一月一日

416

1638

0250

416

S. 1.1.1.0 - 64

民國二十一年二月六日發行

民衆週報

第二二二號合刊

江蘇省立南京民衆教育館、民衆週報社

(四六倍版、二十二頁支那文)

内容目次

- (一)「前門の虎を防ぎ後門の狼を引入る」を警戒せよ 石
- (二)今後の反日運動 (下記抄譯) 泰
- (三)上海事変と第二次世界大戦問題 泰鏡

417

1639

0251

S. 1.1.1.0 - 64

- (四) 商業資本と農村経済
- (五) 征伐群衆の中へ
- (六) 婚姻の要件 (法律常識)
- (七) 上海より南京に飯を
- (八) 恐るべき家 (小説)
- (九) 黄浦江辺の悪鬼 (詩)
- (十) 全世界弱小民族の反帝宣言 (下記抄訳)

快然 丁瓚 搖一 青羊 子沙 勁之

目次了

本文 (抄譯)

(一) 「前門の虎を防ぎ後門の狼を入る」を警戒せよ 石  
 今や日本帝國主義は上海攻撃に次いで更に全力を集中して長江沿岸及南支一帶をも攻略せんとし之と同時に一方又

英、米、佛各國も多数の軍艦を派遣し着々中國分割戦争を準備しつつありて此處に第二次世界大戦は將に爆發せんとしてゐる。この重大なる危機に當面し我當局は徒らに國際聯盟に依頼して何等積極的態度に於て亦而も日軍に投降したる清朝の遺臣等が動搖に乗じて建設したる所謂滿洲國に對しても單に外交部より一片の形式的宣言を發せるのみを敢へて許伐を聲明しやうとはしない。而して一方上海事件發生するや國際聯盟は俄に硬化し積極的に日本に干渉せんとする形勢を示してゐるがこれを以て直ちに日本恐るに足らば前途を樂觀することは断じて許されぬ。日本は今次の上海攻撃によつて全く外交的に孤之状態に陥つてゐるとは云へ聯盟各國も決して正義人道より日本に干渉

S. 1.1.1.0 - 64

419

1641

0253

S. 1.1.1.0 - 64

418

1640

0252

せんとするものに非ずして極東に於ける自國の經濟利益曠  
呂の分取りを確保せんとするに外ならぬのである。故に我  
等は日本のみならず他の一切の帝國主義も我等の敵である  
ことを認識し「前門の虎を防ぎ後門の狼を入る」ことを警告  
せねばならぬ。

(二) 今後の反日運動

秦 鏡

上海事件は日本の對支侵略の一手役であつてその目的は  
我中國をして日本の所謂滿蒙既得権を承認せしめ我反  
日運動を禁止せんとするにある。然るに事件發生以來國內  
の抗日運動は益々高潮し、各帝國主義の在支對立は愈々  
尖鋭化し今や第二次世界大戰を惹起せんとしてゐる故に  
斯くの如き困難に當面したる今日我等が今後の反日運動

は從來の統治階級の無抵抗主義を放棄し我等民衆自身  
躍起して勇敢に抗日し世界弱小民族の革命力量を聯合し  
て一切の帝國主義を打倒することにある。

(十) 全世界弱小民族の反帝宣言

「弱小民族解放協進会」の「世界弱小民族に告  
ぐる書」より轉載す

親愛なる一切の弱小民族諸君！我等が帝國主義より受くる  
壓迫、搾取は今や極端に達してゐる。我等が國土は完全に蹂  
躪され我等の膏血は己に搾取し盡されてゐるこの悲惨なる  
侵略、搾取に對して我等は最早これ以上堪へ忍ぶことが  
出来なくなつた。此に我等は明らかに関争の旗幟を掲げ熱  
狂的に民族革命の完成を祈るものである。  
今や帝國主義は今や行詰りの状態に陥り世界的經濟恐慌

S. 1.1.1.0 - 64

421

1643

0255

S. 1.1.1.0 - 64

420

1642

0254

は日一日と尖鋭化し各國の失業群は日に激増してゐる。そして帝國主義は已にその最後の階段たる崩潰滅亡の一途を辿り其の反面に世界弱小民族の革命運動は必然的に高潮を示してゐる。

親愛なる一切の被壓迫民族諸君、過去に於ける幾多の闘争中我等は已に多くの錯誤と欺瞞を實驗して來たがこの欺瞞と錯誤は更に將來への自覚と改定を明示してゐる。此に我等が今後取るべき正確なるコースを明示し過去に於ける教訓と經驗とによつて左の如く今後我等が為すべき民族運動の闘争コースを指示せん。

1. 歴史的進化の法則に違反せざる民族解放運動の意義を確定せよ。

2. 國際的弱小民族團體を組織し民族運動の中心を確立せよ  
3. 弱小民族とプロレタリアとの聯合戦線を張れ

(以上)

423

S. 1.1.1.0 - 64

1645

0257

423

S. 1.1.1.0 - 64

1644

0256

422

亞細亞局

外發秋第七三八號

昭和七年四月八日

第一課

昭和七年四月拾日接受

排日運動

兵庫縣知事 白根竹介

逓信局

内務大臣 鈴木喜三郎殿

外務大臣 芳澤謙吉殿

警視總監 京都大阪  
警察總監 福岡長崎 各長官殿

排日字句ヲ押捺セル民國紙幣  
發見ノ件

要 四月二日檢挙シタル賭博犯民國人關冠文ノ所持金  
中ニ「對日經濟絶交」ト押捺セル民國紙幣二枚  
ヲ發見ス

原籍 廣東省南海縣九江  
住所 神戸市榮町三丁目一六

貿易商店員 關冠文 三六

右ハ本月七日附兵外發秋第七一九號ヲ以テ既報ノ  
賭博現行犯人ニシテ該檢挙ニ際シ全人ノ所持金ヲ  
檢シタルニ民國浙江省興業銀行發行ノ拾圓紙幣  
ノ表面ニ紫色ゴム印ニテ「對日經濟絶交」トニ行押捺  
セルモノ一枚ヲ所持セルヲ發見シタルヲ以テ之ガ入手經  
路ニ就キ取調タルニ右ハ客年十二月初旬頃神戸市  
榮町一丁目三八聯興兩替店ニ於テ兩替入手セルモノ  
ナルニト判明シタルガ前記聯興兩替店ハ既ニ本年  
二月末老舗賣却ノ上歸國セルモノナルヲ以テ之ガ經

S. 1.1.1.0 - 64 425 1647 0259

S. 1.1.1.0 - 64 1646 0258  
424

250

1140

路ヲ闡明スルニ到ラザルモ為念一應各兩替店ニ就  
キ一齊取調ヲ行ヒタルモ他ニヤニ類スルモノヲ發見セ  
ズ

右及申(通)報候也

シ  
フ  
愛  
呈

426

S. 1. 1. 1. 0 - 64

1648

0260

425

1140



外務省  
外秘第九五一號

第一課

昭和七年四月十一日

警視總監大野録一郎

内務大臣鈴木喜三郎殿  
外務大臣芳澤謙吉殿

神奈川、愛知、大阪、兵庫、長崎、福岡、各府縣長官殿  
在支内務事務官殿

251

支那抗日會員等潛入容疑ニ関スル件

首題ニ関シ四月一日午前七時三十分頃近衛師團司

1140

令部會計課雇員菊地政吉ナル者府下井荻町  
字上井草一三三七ノ自宅ヨリ出勤ノ途中省電中  
共線市ヶ谷驛ニ下車シ同驛前ニ於テ添付写真  
ノ如キ「抗日救國」ノ文字アル指環一個ヲ拾得シ  
所轄麹町署へ届出テタルカ同地点ハ支那留學  
生等ノ散在スル牛込、四谷、麹町各區ノ要路ニ當  
リ該品ハ同地域在住支那人ノ遺失セルモノト認  
メラル、近來支那本國ニ於テハ各地ニ「抗日救國  
會」ナル排日團體ノ組織アリ又上海ノ租界内ニハ  
便衣隊ノ出沒絶ヘスシテ且之等ノ團員ハ其身邊  
ニ所屬ヲ標示スル各種ノ表識物件ヲ着帶ス  
ルヲ常トスルハ豫テ聞知セラレ、処ニシテ又目下支那人ハ

428

S. 1.1.1.0 - 64

1650  
428

0262

S. 1.1.1.0 - 64

427 1649

0261

排日運動

昭和七年四月拾貳日接獲



252

1140

時局ニ關係シテ我國ニ對シ不逞ノ見解ヲ逞ラ  
 シ種々奇矯ノ謠言發生シ居ル際トテ或ハ該指  
 環ハ右等ニ團練隊員ニシテ渡來潛入シ居シ  
 ルモノ、遺失シタルニアラサルヤノ疑アリ極力該  
 遺失者搜查中ナルモ尚之等潛入者ノ有無ニ  
 就テハ嚴查警戒中ニ有之  
 右及申(通報候

429

S. 1.1.1.0 - 64

1651

0263

429

REEL No. A-0116

④

1140

外務省  
外務大臣  
外務大臣 芳澤謙吉殿

第一課

昭和七年四月十三日

警視總監 大野 録 一郎

昭和七年四月拾四日接

1140 1652 430 0264

歐米局

内務大臣 鈴木喜三郎殿  
外務大臣 芳澤謙吉殿

情報部

北海道、秋田、宮城、千葉、神奈川、兵庫、  
愛知、京都、大阪、廣島、山口、福岡、長崎

各廳、府、縣、長官殿

関東、朝鮮各警務局長殿

253

分類 11.1.0.25-1

支那本國ノ左傾反日宣傳物  
郵送配布ニ関スル件

1140

首題ニ関シ四月七日外務第八八〇號、既報ノ處  
其後更ニ別記内容ノ如キ

一、文藝新聞 四十八號

一、東方青年 二卷三號

ト題スル左傾反日宣傳物ヲ在京民國留學生宛  
本國ヨリ郵送配布アリタリ  
右及申(通)報候

431

8.1.1.0-64 431 1653 0265

8.1.1.0-64 1652 430

中華民國二十一年三月二十八日

文藝新聞 第四十八號

上海棋盤街交通路一三〇號

(四六版新聞紙四ツ切六面活版刷支那文)

主要記事抄譯

(一) 血の二個月

日本帝國主義の軍隊が閩北攻撃を開始し、其の砲彈は中國人の血を沸騰させた。眞里な死の灰は爆撃機の爆音中で我々の身を包んで居り、鉄の爪の様な戦の魔手は砲彈の旅裂

の中で我々の大地を揺動せしめて居る。

我々被壓迫奴隷は自ら民族解放の烽火を擧げ、我々の事であるが、只問題は誰が此戦争の指導者となるかと云ふ事である。

(二) 汎太平洋文化運動聯歡週

帝國主義の集團たる國際調査團は上海に到着して居る。

この日本帝國主義が攻撃し又國際帝國主義が中國分割を準備して居る時、汎太平洋文化運動聯歡週が行はれて居る事は意義ある事である。

汎太平洋諸國が文化運動に従事しては各國の兄弟等が最初の握手である。今後必ず共に我々の團結を一層固くし、以て帝國主義を代表するブルジョアの文化界の陰謀と欺瞞とを暴露し、然して文化的の工具を以て帝國主義が植民地の利益を掠奪す

254

8. 1. 1. 1. 0 - 64

433

1655

0267

8. 1. 1. 1. 0 - 64

1654

432

432

0266

る事と被壓迫大衆を虐殺するが如き暴行に對し徹底的に反對  
 しようでは無いが、汎太平洋聯誼週萬歳！  
 (三) 若し支配階級の思想的支配を顛覆せねば  
 被壓迫者の解放は不可能である。

「プロ科擧社が成す」

最近成之しプロ科擧社の任務は、勞農大衆の系統ある社會科  
 擧啓運動に從事する事であり、且勞農大衆の科擧上の要求、求  
 即ち、封建思想、ブルジョア思想、ファシスト、社會ファシスト思想  
 文化政策及帝國主義の文化侵畧及宗教等に對する鬭争を  
 満足せしめる事でもある。其の行動綱領の最も重要な事は思想  
 言論、出版、結社、集會の自由と反ファシストを擧ぐることである。彼  
 等の發した成之宣言中に「社會下層建築の變革に隨つて一切の上

層建築も、或は急に或は緩く變化を起して居る。然し我々が此に  
 用いた「隨つて」の文字は決して絶對的の「隨つて」ではない。社會  
 經濟發展の階級は、固より各階級の文化を定める事は出来る  
 が、然し上層建築は其の經濟的基礎に對しては必ず反作用  
 があるものである。故に若し支配階級の思想的支配を顛覆せね  
 ば被壓迫階級の解放は不可能である」と云て居る。

(四) 跪突團、無恥の奴隸的道德

天津には跪突團があつて日貨不賣の滑稽な藝當を商人に勧  
 告して居るが、之は華北の青年がぼんやりして居る事を代表して  
 居るものである。然し一方には夫張り多數の青春に燃えて居る若  
 人も居る。汽笛週刊は天津の八九人の青年が作つて居り其の賣  
 行も大したものである。北平では一種の定期刊行物の「聯友」と云ふ

S. 1.1.1.0 - 64 435 1657 0269

S. 1.1.1.0 - 64 1656 434 0268

ものが発行されて居るが、之は呵叻社と新興劇社が二場の夜景を舞台に出そうとする準備である。青年と社會の第五期は時代青年と改名され第七期が出版されて居る。以上は皆北方青年の凱情の発露である。

(五) 國際文化界が團結を起し、

聯歡週中に更に深い連絡を得た。

米國作家同盟は太平洋沿岸諸國の文化團體と聯合して「太平洋文化運動聯歡週」なるものを起したが、其の期間は三月八日から十八日迄である。この期間中には國際的と各國の無数の重要革命記念日の包括されて居る。「聯歡週」に参加して代表者は、米國、支那、日本、朝鮮、台灣、印度、澳洲、メキシコの諸國であつた。

(六) 世界各地より寄せられた偉大な回答

全中國エスペラント研究者は滿洲事変に牽起せよ。

曩に漢口エスペラント學會發起で全國の各エスペラント團體は聯名で日本帝國主義軍隊の侵略反對の宣言を發表したが、最近世界各地のエスペラント團體から之に對する回答が來て居るから、其の一部を茲に訳出しよう。

「ハボロレイスクリエスペラント團體は諸君の漢口「エスペラント學會」の宣言を受取つて、ソ聯の人民——労働者と農民は皆同様に、日本軍の滿洲に於ける行動は他の各帝國主義の軍隊が「ゴザック」、「ウクライ」、印度、埃及、ヒリピンを占領して時の行動と同じであり、且又日本帝國主義の軍隊の行動は、日本及世界資本主義存続上から云つて必然的且避く可らざる結果である

S. 1.1.1.0 - 64

437

1659

0271

S. 1.1.1.0 - 64

436

1658

0270

と認めて居る。諸君はソ聯の各弱小民族と其國家は如何にして解放されることが知って居る處であらう。故に諸君が各帝國主義に對抗する戦闘中に在ては、ソ聯は當然諸君の最も好い手本であり且精神上の援助ともなるのである。諸君直敷この意見を傳へられ度い。

一九三二年一月八日

ソ聯エスペラント聯盟ノボロスキ委員會

主席　　ゲプステイン

指導員　　ラエルコー

(七) 毎日便覧

一、文藝研究會は四馬路に分會を置いた、會員は十餘名に達して居る。

二、世界と中國第二巻第四號は「反帝特號」として出す事に

決定した。

三、「ソ聯新聞概観」は本號に登載せず、何れ「世界と中國」の

ソ聯紹介特號を出す。

四、ソ聯タス通信社は近く國民政府と相談して極東通信處を

上海に設ける筈である。

(八) 烽火實録

戦時號外「烽火」は十三日間発行されたが費用の關係で中止する事になった。故に上海の戦況を一冊に纏めて「烽火實録」として出版する事にした。

(九) 日本帝國主義の上海侵畧戦中の

出上萬一郎君の往復文書。

S. I. I. O - 64

1661

0273

S. I. I. O - 64

1660

0272 438

(1) 出上の來信

袁殊君、近來上海には連続的に空前の混乱が起きて居るが、私は三月三日東京に來た。新聞事業に従事して、故々日本無産階級の陣營中から或種の覺醒なるものを得た。中国と日本とは常にごくして居るが、之は好い事であるか何うか、我々は国籍が異なるが思想は之と反對に同一である。

「耐普」は白色テロの渾塵を解散し、今只「文戦」あるのみである。「文戦」は「合法性」を獲得して發展し、日本プロ文學運動の唯一の光明となつて居る。君が中心となつて居る上海の「左联」一派の反帝抗日運動の消息は既に二、三月西號の「文戦」中に登載して置いた。

今後我々の連絡は國際方面から云つても重要なるもので且マルクス、レーニン主義から云つても絶對的に連絡を固守する必要があるにある。

この意味は即ち諸君の消息を知りたいと云ふ事である。故に「文藝新聞」及「烽火」を送附され度い(下畧)諸君の活躍と進出を祈る

出上 萬一郎 兩夜

(2) 其の回答

出上君、三月號の「文學新聞」と「プロ文學」を受取ると同時に君の手紙も見えた。君の名前は暫く考へて未だと思ひ出した。昨年春上海毎日新聞社の二階で君と一度會つたのである。上海は近來貴國皇軍の侵襲の御蔭で、中國革命兵士と大衆

S. 1.1.1.0 - 64

441

1663

0275

S. 1.1.1.0 - 64

440

1662

440

0274

の反帝抗日の抵抗戦が起されて、全く「混乱」中である。之は好い  
 が悪いかの、中國勞農兵大衆流血の事實から見ても議論  
 は不必要である。貴帝國の統治階級は其の勢力を張りこんで  
 て、更に深刻に中國の革命運動を鎮壓し、中國勞苦大衆を  
 搾取して居るが、從來から「權益擁護」の美名の下に、中國大衆を  
 て幾度となく流血の惨事を起させて居る。所謂「ごまごま」は此處  
 に在って、問題は決して中國と日本の大衆が「ごまごま」を起すと云  
 ふ事ではない。中國と日本の勞苦大衆は同一革命の下に自由解放の  
 爲めに闘争し、西者共産接接を擁護しと團結をして居るのである。  
 日本からの雜誌に據ると「研普」はプロ文化聯盟の結成に因つて自  
 発的に解散したが、日本に於ける眞のプロ文學運動の領導集  
 團は作家同盟であるといふ事を知つた。故に貴帝國白色テロの壓

迫下で「合法性を獲得して發展」と所の「文戦」は決して「唯一のもの」  
 では無いと思ふ。上海の反帝抗日運動の消息に關しては「文戦」には  
 餘り詳しく出て居らぬと思ふ若し君等が何うしても「國際的連絡」  
 を獲得しようといふのなら、君に一言呈しよう。  
 中國勞苦大衆の反帝抗日革命運動中に在り、資産階級の懐に投降  
 して今では之に忠實である中國社會民主主義者一派は、羊頭狗肉の欺瞞  
 策を行ひ、中國統治者は之を黙認し「合法性」社會ファシストの實  
 際を取入れるに至つて、この事を「文戦」に消息として載せて貰ふ  
 度い。

君の「或種の覺醒」を期待して居る。健康を祝す

一九三二年「三八」の夜

袁 殊

S. 1.1.1.0 - 54

443

1665

0277

S. 1.1.1.0 - 64

442

1664

442

0276



中華民國二十年三月八日  
東方青年 第二卷第三號  
上海西摩路百九〇號  
東方青年社

(四六倍版更紙假綴活版刷八頁支那文)

目次

- (一) 十九路軍の上海撤退と反帝運動の前途 (下記訳出) 若素
- (二) 十九路軍の總退却と上海の青年
- (三) 樊仲雲の「列強干渉論」 白苗
- (四) 胡適等は何故ロウエルに陳謝したか 趙亞美
- (五) 誰か我々を左様させたか
- (六) 醜態百出の上海大學生聯合會 (下記訳出)
- (七) 神父の「勸告」 (下記訳出)

目次了

本文抄訳

(一) 十九路軍の上海撤退と反帝運動の前途。 若素

(前畧) 民族の利益や兵士の膏血や其全部ヲ賣つて總退却した十九路軍の英雄將軍は全く日本帝國主義に投降した馬占山と同様である。事か暴露された、即ち彼は上海を撤退して日本帝國主義に我中國の分割を助け、兵士を虐殺して中國革命の戦士と討つた者である。彼今次の上海撤退により今や我々革命青年は今後若し我々が日本に反抗し帝國主義の中國

S. 1.1.1.0 - 64.

445

1667

0279

S. 1.1.1.0 - 64

444

1666

0278

分割に反対せんとせば先づ日本や各帝國主義に  
 投降した軍閥を銃殺し又兵士を壓迫して日本  
 の要求を容れ上海を退却し且帝國主義の上  
 海分割を助けた國民政府を顛覆して勞農兵  
 の政權を樹立するにあらざれば日本帝國主義  
 の追撃に對し徹底的に反抗し、又上海から彼等  
 を打排ふ事も出来ぬ事を痛切に覺知した。同時  
 に兵士の抗争と中國の反帝運動は土地革命と  
 密接なる關係を有して居る事か諒解出来得  
 よう。青年農民の要求は「租税反對」「教育  
 普及」「軍閥主義反對」「青年農民自衛軍組織」  
 「土豪劣紳打倒」「土地均等分配」等であり、又學

生の要求は「學費免除」「無能教員驅逐」「言論出  
 版集會結社の自由」「青年義勇軍組織」「党化  
 教育反對」「軍國教育反對」「校政參與」等々  
 あるが、我等は之等の闘争を連絡すれば最後は  
 勝利を得るは必定である。

十九路軍の撤退に因り各國の分割闘争を緩和  
 する事は少しも出来ぬ、故に彼等の撤退は客觀  
 的にも青年大衆の抗日反帝の力量を減少する  
 事も出来ず却つて中國の反帝運動の前途を  
 して、更に直接決闘のコースへと向はしめるもの  
 である。

(六) 醜態百出の上海大學生抗日聯合會

S. 1.1.1.0 - 64 447 1669

0281

S. 1.1.1.0 - 64 446 1668

0280

満洲事変發生當時上海大學生聯合會は紛々として「馬占山援助」義勇軍を組織した。日本帝國主義が上海を攻撃するに至つて、彼等義勇軍は風を喰つて逃走してしまつた、のみならず「馬占山援助」も失敗して、自分の「牛」も人に横領されてしまつた、之は全く醜態ではなからうか、又一千六百元を集めて之を着腹した事も醜態ではなからうか、この醜態を百出したものは、大學生全体ではなくして大學生聯合會内の腐敗分子である、即ち國民黨の忠實なる走狗改組派國家主義派第三黨取消派等が此醜態を演じたのである。

(七) 神父の「勸告」

十九路軍の總退却後吳淞砲台に四千名の兵士が猶も駐屯して退却を拒んで居つた、兵士等の命令を聴かぬ処から、神父(上官を指す)等は耶穌を以て兵士を退却させ撫と考へた。帝國主義が養つて居る教徒や牧師は、上海事件には斯からず働いて居つた然し彼等は常に片手に爆彈を持ち片手には「赤十字」を着けて居つた次第である。之がキリスト教のタンスである。

(以上)

S. 1.1.1.0 - 64

443

1671

0283

S. 1.1.1.0 - 64

448

1670 - 448

0282

1140

外務大臣 芳澤謙吉殿

昭和七年四月十三日

警視總監 大野 録 一郎

第一課

昭和七年四月拾四日接達

上達ニ付テハ日支衝突事支那領事館  
排日排僑ノ非録

分類 1.1.1.0-25-1

253

内務大臣 鈴木喜三郎殿

外務大臣 芳澤謙吉殿  
北海道 秋田 宮城 千葉 神奈川 福岡  
愛知 兵庫 京都 大阪 廣島 山口 長崎  
各廳府縣長官殿  
關東 朝鮮 各警務局長殿

支那本國ヨリ及日宣傳物郵送配布ノ件

首題ニ関シ二月二十五日外秘第四七四號、既報ノ

1140

其後更ニ別記内容ノ如キ

一、人民週報 第五號  
一、民衆 第三四號合刊、三六號、三七號

ト題スル及日宣傳物ヲ上海方面ヨリ在京民國留學生宛郵送配布アリシリ御參考マテ  
右及申(通)報候

8.1.1.1.0-64

451

1673

0285

451

8.1.1.1.0-64

450

1672

0284

450

1140

民國二十一年二月十二日發行  
人民週報 第五號

上海佛租界滄州路五六四號  
人民週報社

(四六倍版 十四頁 支那文)

内容目次

- (一) 生存競争の戦場を行く、
- (二) 戦争と平和、
- (三) 日支停戦調停に對する私見(下記抄訳)
- (四) 國難會議停頓す、
- (五) 試金石たる上海事件 (下記抄訳)
- (六) 漢口の社會種種々相

堅伯敏 綵建亦  
忍展書 橋人農

1140

264

- (七) 軍隊腐敗の原因
- (八) 抗日の反面
- (九) 鉄條網と土囊
- (十) 「モダン・ガール」の新價値、

(下記抄訳)

萃嚴 柏季 建人

目次了

453  
S. 1.1.1.0 - 64 1675  
453

0287

S. 1.1.1.0 - 64 1674  
452

0286

本文(抄訳)

敏書

(三) 日支停戦調停に對する私見  
 目下英米佛、伊の四國公使の調停によつて進められつゝある日支停戦交渉は、滿洲も上海事件と共に解決すべしとする第五項に對する日本側の反對によつて全く停頓の形勢である。日本は滿洲も上海事件より切離して解決せんと主張するは、即ち武力を以て永久に滿洲を占據せんと爲めてある。

然し乍ら滿洲も上海も共に中國の領土にして上海事件は明らか日本が對支侵略の第二步である、日支停戦を實現せんか爲めには上海のみならず先づ日本軍の滿洲撤退の先決問題であつてこの根本問題が解決される限り停戦交渉は進展し得ないことは確實である故に我等は一面四國公使の調停を促進すべしと共に他面切實に軍備を進め一方四國の調停が失敗に歸したる際我等に残さねた最後の一途は正式對日宣戰あるのみである。

(五) 試金石たる上海事件

建人

今や上海事件は單なる局部的日支衝突ではなからず全世界に影響する大問題となつてゐる。日本帝國主義が今次の公理を無視したる兇悪なる暴戻は實に全世界各國に對し挑戰的示威をなすものである。故に我等は上海事件は我中國が對外的

S. 1.1.1.0 - 64

1677

455

0289

S. 1.1.1.0 - 64

1676

454

0288

に強國對弱國の實際問題を例示すの試金石であり  
又日本帝國主義が果して對支侵略政策を實現し  
得るや且又微力なる武力を以てよく全世界を制御  
し得るや否やを決すべき試金石であることを充分に  
認識すべきである。

456

ハ抗日の反面、

柏 季子

日軍の攻撃によつて上海は數時間にして全く日本帝  
國主義の虐殺場と化し我軍又よく日軍に抵抗奮  
闘しこの兩軍の十字砲火の中にさうも繁榮せし上海は  
全く深刻なる恐慌状態に陥つてゐる、斯くの如き形勢の  
下に我等の喜ぶべきことは一般民衆が十九路軍將士の

熱血奮闘を慰問し續々義勇軍に参加し負傷兵  
の救護に奔走しつゝあることであるか 反面には悪む  
べき奸商等が此機に乗じて暴利を貪り日軍の爆彈  
より以上に民衆を苦難に陥れつゝある

(以上)

S. 1.1.1.0 - 64

1679

457

0291

S. 1.1.1.0 - 64

1678

456

0290

1140

中華民國二十二年二月十日

民衆 三日刊 第一卷第三十三號合刊

發行所 民衆社

(四六倍版更紙假綴准版刷二十四頁支那文)

内容目次

- (一) 三日簡評
  - (1) 汪精衛の「骸骨」
  - (2) 鄧振銓の「銃殺」
  - (3) 中國の財政は畢竟宋子文の私産である
  - (4) 米國の硬軟

267

1140

- (5) 「和平區域」と「哨兵地帯」
- (二) 十九路軍援助の事實は如何に
- (三) 蔣中正外交政策の独立性
- (四) 上海事変後の國際形勢展望
- (五) 上海事変と日本帝國主義の前途 (下記譯出)
- (六) 日支問題と世界第二次大戦 (下記譯出)
- (七) 愛人(小説) 十二回 細田民樹著 (下記譯出)
- (八) 六日大事記 (下記譯出)

眞之 眞之 下乗 博問 園旁 石郎譯 詠者 (目次了)

S. 1.1.1.0 - 64

1681 0293 453

S. 1.1.1.0 - 64

1680 458 0292 458

REEL No. A-0116

アジア歴史資料センター



本文（抄譯）

博問

(五) 上海事変と日本帝國主義の前途

今や日本帝國主義は極端に其の獸性を發揮して上海を破壊し盡し、之は實に憤怒且恨むべき事である。然し之は我が國民の迷夢を醒し東三省問題の解決を保して居り又此事件に因つて日本帝國主義を葬る事が出来るのである。彼等は最初中國軍隊には骨が無く抵抗せぬから彼等所定の計画を進行する事が出来ると思つて居たが豈計りや却つて十九路軍の爲めに大敗北を招き、英米も突然態度を一變して干渉し出すに至つた。

日米の對立は歐洲大戰後非常に露骨となつて居る、又中國に於ける兩者の衝突も更に顕著となつて來た。日本の滿洲事変の暴行

は、中國政府が米國資本を歡迎して滿洲の實業を開発して居ると云ふ小さい部分的原因に因つて發生したものである。田中義一の滿蒙積極的侵略の上奏文中に「鉄血主義を以て東三省を保持せんとすれば第三國の「アメリカ」は必らず支那の煽動を受け我を牽制するであらう。其時我國は當然米國を驅逐せねばならぬ」又「將來支那を制せんと欲するなれば必らず米國の勢力を打倒するのが先決問題である」と説いて居る。故に米國も日本を當の敵として居るのである。

滿洲事変上海事変の暴行は日本の軍閥資本家官僚浪人が大いに主張した處であるが、平良大飛は之に大反対であつた。池田一郎は「今日の滿蒙問題」の一篇文章中に「日本帝國主義の工具以外には誰も斯る日本軍の勇敢さを喜ばぬ、之等の軍隊が無事の多

461

S. 1.1.1.0 - 64

1683

461

( 0295

S. 1.1.1.0 - 64

1682

460

0294

教中國民衆を虐殺し、多数の日本兵士を死傷せしめて居る。之れでも名譽の戦死傷と謂ひ得らば様か(東方雜誌第九卷第一号記載)と説いて居る。日本は大多数の左傾分子に由つて占められて居り、特に日本の斯る帝國主義的侵略行為に反對して居るのである。之は即ち商市場が日に縮少され平民大衆の生活が日に悪化して居るが爲めである。故に大多数の左傾分子が一致的行動を取つて日本の國体を顛覆するに至る事は當然な事である。

斯く國難が重疊するのは日本の武力政策下に在て當然起るべき問題である。又斯る政策に由つて日米露の衝突は免れぬのである。故に日本帝國主義の末路も目前に迫つて居る。同胞等よ、努力し、奮闘し、せよ、最後の勝利は最後の努力に在る」のである。

(六) 日支問題と世界第二大戦

園 旁

田中義一の滿蒙積極政策の上奏文は日本帝國主義の我中國に對する積極政策の態度を代表するに足るものである。故に日本帝國主義が日常口に出す「日支親善」「共存共榮」の語句は全く我々を欺瞞し我々を侮弄する詭辯に過ぎぬ。我々は之に由て日本帝國主義の中國侵略及分割が中絶される事なく、且永遠に其の魔手は伸ばされると云ふ事を非常に明白にする事が出来る。抑日本帝國主義の生命は中國を離れては根本的に生存する事は出来ず、又世界に冠せらんとするには中國を離れては夢想せしむる事が出来ぬものである。故に田中内閣の上奏文中に「將來支那を制しよう」と欲するは、必らず米國の勢力を打倒するのが先決問題で、之も日露戦争の意と大同小異である。支那を征服す

S. 1.1.1.0 - 64

463 1685

0297

S. 1.1.1.0 - 64

462 1684

0296

るには先づ満蒙を征服すべきで、世界を征服するには先づ支那を  
 征服すべきである」と説いて居る。之に因り日本帝國主義と中國  
 とは根本的に相容れられず、中國あれば日本帝國主義は存在せず  
 日本帝國主義あれば中國は生存する事が出来ぬと謂ふ事を、我  
 らは明白に知る事が出来る。従つて我々が日支外交文を繕つて  
 見れば、何の一言も鮮血によつて染められて居るではないかと、

日本帝國主義の東三省占領後、日本は他の帝國主義國家及社會  
 主義國家のソカイエトロシヤと衝突して居るが、ソ聯の五ヶ年計  
 劃が完成したか爲め、各帝國主義國家は恐慌を來して居る。日  
 本帝國主義は中國革命壓迫とソ聯攻撃の見地から、東三省を占  
 領せざるを得ずして東三省を其の根據地となしたりである。日本  
 の立場で謂へば、無論英、米又はソ聯と戦争するには、當然東三

省を占領して根據地となすべきである。然し之に由り各帝國主義  
 國家との矛盾は一層尖鋭化する事は理の當然である。故に今や  
 帝國主義同志の戦争或は帝國主義が聯合してソ聯を攻撃す  
 る戦争は今や爆發せんとして居るのである。被壓迫大衆より、  
 大難に臨んで居るのぞい、生死の境に立つて居るのぞい、我々は  
 只徹底した革命によつて被壓迫奴隸的大衆を救出する一途ある  
 のみである。

(ハ) 六日大事記

記者

- 二月四日、日本軍大敗し我軍は大砲九門、機關銃十台を鹵獲す  
 エ部局より日本軍の虹口に於ける行動に對して抗議す
- 二月五日、日本軍飛行機三機を射墜し、鉄甲車三台を鹵獲す
- 二月六日、真茹で又日本軍飛行機一機を射墜す

464

S. 1.1.1.0 - 64

1686  
464

0298

0299

1687  
465

S. 1.1.1.0 - 64

1140

閩北の日本軍撃退せる  
 二月八日、吳淞に於ける日本軍艦一艘が坐礁す  
 二月九日、日本軍飛行機五機を射墜す、日本軍は到る處に於て虐殺を勵ぐ  
 日本の前藏相井上暗殺せる

0300

271

(一) 三日簡評  
 (1) 誰が茶檜か？

内容目次

同誌 第一卷第三六號二月十七日発行(体裁同上)十六頁

1140

- (1) 蔣中正汪精衛等の賣國事實  
 日本軍は蔣中正の依頼に依る來たものである  
 眞之
- (2) 何成濬の計日勦共  
 眞之
- (3) 日本軍の砲彈に瀋陽の刻字がある (下記譯出)  
 眞之
- (四) 投降と反抗  
 下乗之
- (五) 無抵抗主義は賣國主義である  
 博問
- (六) 重大時局中にあつて我等の持すべき決心  
 園旁
- (七) 愛人(小説)十四回 細田民樹著  
 石郎訳
- (八) 三日大事記  
 記者

(下記譯出)  
 (目次了)

467

S. 1.1.1.0 - 64

1689

0301

467

S. 1.1.1.0 - 64

1688

466

本文(抄譯)

(一) 三日簡評

(3) 日本軍の砲彈に瀋陽の刻字がある。

十四日の時事新報に「或る者が日本軍の砲彈の破片を拾った處が、其の中数片に瀋陽(奉天)兵工廠製造の刻字が記されてあつた、又其の年別は民國三年、七年、十三年、十四年の四種であつたと」の記事が載せられて居つた、之は張學良が無抵抗の結果、奉天兵工廠の武器彈藥全部を日本帝國主義に與へたので、日本帝國主義はこの中國人の膏血に依つて造られた武器彈藥を以て中國人を打殺して居つたものである。誠に傷心に堪へぬ事である。

日本帝國主義が中國を侵襲する重兵は、兵工廠の所在地である。

(二) 三日大事記

記者

奉天上海占領は皆兵工廠を占領する計劃である。  
二月十三日、日本軍秘かに曹家橋を渡らんとして全軍顛落し、  
二千餘人溺死す

虹口日本軍司令部に砲彈命中す、又日本軍飛行機一機を射墜す

二月十四日、日本軍吳淞を渡らんとして失敗す

二月十五日、日本軍艦の吳淞砲撃再び失敗

日本便衣隊米人を殴打す

同誌第卷第三十七号二月十日発行(体裁同上)十六頁

内容目次

(一) 三日簡評

- (1) 廣東飛行機扣留の理由を質問する
- (2) 戴天仇の渡日は何の爲めか (下記訳出)
- (3) 蔣、汪召集の二中全會の作用
- (4) 中之地帯と宋子文の物産商賣
- (二) 十九路軍の將來
- (三) 上海事変中民衆の要求する平和
- (四) 蔣中正無抵抗の黒幕暴露
- (五) 長期抗日のコース

真之 下乘 獅子 博問

470

S. 1.1.1.0 - 64 1692 0304 470

273

- (六) 革命軍人の任務とは何か
- (七) 愛人(小説) 十五回 細田民樹著
- (八) 三日大事記 (下記譯出)

園旁 石郎 記者 (目次了)

0305

本文(抄訳)

(一) 三日簡評

(2) 戴天仇の渡日は何の爲めか  
 戴天仇は「日本通」であるとして居り且多数の日本反人を有つて居る。彼が今回蔣中正の使命を受けて日本に赴くのは、當然重大な秘密任務を帯びて居る。彼の秘密任務とは一体何であるか、其の真相を言ひ當てる事は困難であるが、今丁度

S. 1.1.1.0 - 64 1693 471

1140

274

1140

蔣中正が日本帝國主義と妥協するべく努力して居る時であるから、この秘密任務も或程度まで言の當たる事が出来よう。蔣中正の賣國計劃は戴天仇の援助が無ければ成功するものではない。両者は取引所の支配人で、従前は貨物の買賣をして居たが、今は國家の買賣をして居る者である。忠勇愛國の大衆よ彼等の行動を注意しよう。

(ハ) 三日大事記

記者

二月十六日 吳淞の敵軍艦獅子林砲台を砲撃して失敗す

敵騎多致溺死す

江湾鎮の激戦で敵十名を斃し、敵の機関銃四

台を鹵獲す

二月十七日 閩北の日本軍我に猛撃を開始せるも、我軍之に反

撃を加へて多大の損害を與ふ。

以上

S. 1.1.1.0 - 64

1695

0307

473

S. 1.1.1.0 - 64

1694

0306

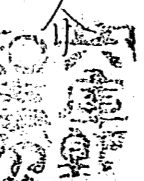
472

人事課

外務部第八四四號

昭和七年四月二十一日

兵庫縣知事 白根 竹介



0308

情報部

亞細亞局

内務大臣 鈴木喜三郎殿

外務大臣 芳澤謙吉殿

指定廳府縣長官 殿

山口  
字ヲ取リ保存

駐神民國總領事ノ排日記事掲載使噓ニ関スル件

278  
(分類 S.I.L.O. 25-)

要旨

一 神戶駐在民國總領事周珏在神戶上海時報特派員鮑振青ニ對シ  
本邦ニ於ケル排華侮華運動ニ付本國新聞ニ通信報道方使噓  
シ上海時報ニ該記事ヲ掲載セシメタリ  
ニ 鮑振青ハ從來東北文化社(會長張學良)ヨリ毎月二百元國民  
政府外交部ヨリ三月目毎二百元ノ送金ヲ受ケツアリシガ日  
自是事變發生以來未右送金杜絶ス

神戸市神戸区下山手通二丁目

中華民國總領事館

總領事

周

珏

當四九年

右總領事ハ客月二十一日訪問セシ

原籍 廣東省中山縣

現住所 神戸市林田区東風池町一丁目一五

上海時報特派員 鮑振青 當三五年

ニ對シヨ神戸松竹活動寫真館ニ於テ上映中ノ上海特  
急ハ民國海陸ノ活動寫真デアル其他活動寫真館  
ノ看板廣告ノ如キ排華的ノモノガ多々アル日本ニ於テ  
ハ民國ノ排日ヲ攻撃スルモ日本ノ排華侮華ノ宣傳ハ  
活動其他ニ依リ大々的ニ行ハレテ居ル此現狀ニ對シテ  
ハ憤慨セザルヲ得ナイ此事ハ民國國民衆ニモ知ラシメ置ラ

S. I. L. O - 64

479

1701

0309

478

1700

478

S. I. L. O - 64



必要アルヲ以テ是非民國新聞ニ日本ノ排華侮華ノ  
狀況ヲ報道スル様通信セヨ  
ト使族セシ為メ鮑振青ハ同日神戸区元町通三丁目  
華新報社ニ赴キ誇大的ニ本邦ノ排華侮華ニ関ス  
ル原稿ヲ作成上海時報社ニ對シ三官局ヨリ郵送通  
信ヲ為シタリ

而シテ該記事ハ四月二日上海彙行四月三日南京發  
行ノ上海時報號外ニ報道セラレタ該記事ノ訳文内容  
(四月十一日附神奈川縣ヨリ通報アリ)左ノ如クニ有之  
前記鮑振青ニ付右通信ヲ為セシ経緯ニ関シ取調べ  
タルニ鮑ノ陳述セシ處別紙聽取書寫ノ如クニシテ同人ハ元

ハ五下山子

S. 1.1.1.0 - 64 .1702 480 0310

未排目的思想ヲ有セザルモ將來不都合ナキ様嚴戒  
シ置タレ

尚鮑振青ハ從來肩書上海時報社ヨリ給料(現在月  
六〇元)ヲ受ケルノ外東北文化社(會長張學良)及國  
民政府外交部ニ本邦ノ狀勢其他ヲ通信報告シ東北  
文化社ヨリ毎月二百元外交部ヨリ三ヶ月目毎二百元  
ノ支給ヲ受ケツ、アリシガ日支事變發生以來右文化  
社及外國部共ニ送金杜絶シ鮑モ亦通信報告ヲ差控  
ヘ居ル模様ナリ鮑現在ノ收入ハ上海時報社ヨリ受ケ  
ル給料及大阪市西区阿波堀四丁目輸出入高余田株  
式會社ヨリ對支取引ノ仲介トシテ月約三三十圓ノ報

S. 1.1.1.0 - 64 1703 481 0311 481

酬並ニ神戸日華時報社ヨリ少額ノ投稿報酬ヲ受ケ  
居ルノミニシテ目下家族三人暮シニシテ家賃一ヶ月十  
七圓ノ借家ニ居住セルが生計裕カナラズ

記

(四月二日付上海時報海外掲載記事原文)

日本排華猛烈

去年九月カラ今日迄宣傳普遍ニ停ラス

日本通信、日本ハ中國政府カ國際信義ヲ顧ミス國民カ  
排日侮日運動ニ從事スルト云フコトニ藉口シテ武力ヲ以テ華  
人並切テ排日侮日運動ヲ永久ニ絶滅セナケレハナラヌト謂ヒ  
日本ハ拳國ニ致排華侮華運動ニ從事シテ居ル所謂文明

國組織アル國家ハ此ノ如キモノデアル

茲通事實ヲ報告スル日本ノ上級軍官、政客、或ハラヂ  
オ或ハ公開演説テ國人ニ政府援助中國征服ヲ獎勵ス  
ル其ノ宣傳次ノ如シ

中國々民党ハ共產党ト聯合シテ打倒日本ヲ高唱  
シ我カ在華既得權ヲ蹂躪スル華人ノ排日抗日侮  
日運動ハ国民党ノ指揮ニ依ソテ行ハレル但シ中國ノ國  
民党ハ中國統治ノ能力ナク党内分裂崩壊ノ態デア  
ル我日本ハ此際是非共最大ノ決心ヲ以テ中國ヲ征  
服セハナラヌ

此ノ外映画、新聞、國粹會、大本教、在郷華人會等ノ

S. 1.1.1.0 - 64 1705 483 ( 0313

S. 1.1.1.0 - 64 1704 482 482 0312

團體ハ一日トシテ中國軍閥、中國軍隊、中國國民  
 党滅滅ヲ高唱シナイコトハナイ又謠言ヲ造ツテ在華ノ  
 日僑ガ如何ニ中國兵匪ノ侮辱虐殺ヲ受クルトカ如何ニ  
 中國政府ノ煽動ニ因ツテ不逞党徒カ我日本ノ既得權  
 ヲ蹂躪スルトカ云ツテ日人ヲ激憤セシメ政府援助、中國  
 征服ニ願カシメル最モ華人ノ堪ハ難キコトハ各映画館及劇  
 場テ毎日「中村大尉華兵ニ慘殺ナル」上海總攻撃ト  
 「廟行鎮爆彈三勇士」「山田上等兵」「上海特急」「中日  
 戦争」等ヲ開演シ中國人ヲ指レテ皆匪トシ賊匪兵匪  
 學匪等カアツテ之等ハ皆社會ノ黒幕ヲ造リ政局腐  
 敗ノ情形ハ彼等ノ表面跳梁テアルト斯クシテ全國人民

大小男女ニ深ク一種ノ仇華印象ヲ腦裡ニ刻セシメル此種  
 排華侮華宣傳ハ昨秋九月以來今日迄未ダ終息セス全  
 國ニ普遍シテ居ル此ノ外幾多ノ侮華歌曲ヲ作り或ハ蓄  
 音器レコード又ハラヂオニ依ツテ播送スル夫故全國ノ兒  
 童ハ毎日征華ノ歌ヲ唱ヘル要スルニ日人ノ排華侮華  
 運動ハ實際上ニ行ハレテ居ル我華人ノ様ニ唯標語ヲ貼ッ  
 シリ口辨ヲ唱ヘルガ如キ空ナモノデナイ

8. 1. 1. 1. 0 - 64 1706 484 0314  
 485 484

聽取書 (寫)

原籍 中華民國廣東省中山縣

出生地 神戸市

住所 神戸市林田区東尻池町一丁目一五一

上海時報特派員

鮑 振 青

當三十五年

右者昭和七年四月二十日外事課ニ出頭本職ニ對シ  
任意左ノ如ク陳述シタリ

一 私ハ從來上海時報特派員トシテ在神シ日本ノ  
時事其他狀況等ヲ本國上海時報社ニ通信シ現  
在東京本社ヨリ毎月六十元ノ支給ヲ受ケテ居リ  
マス

二 私ハ神戸駐在ノ周民國總領事トハ以前意思ノ  
齟齬ヲ來タシ反感ヲ抱イテ居タ事ガアリマスが周  
カ南京政府外交部ニ轉任更ニ駐神總領事ト  
シテ來任後ハ周ニ於テ反省シ好感ヲ以テ迎ヘル為  
メ今日ニ於テハ周總領事トモ交際ヲ致シテ居リ  
マス

三 本年三月二十一日頃デアリマシタカ午前十一時頃私  
カ民國總領事館ニ参リマシタ時事務室デ任領事  
ト林主事カ私ニ対シ近ク新聞地ノ松竹活動寫真  
館テ上海特急ヲ上映シ駐神外國領事ヲ招待  
シテ民國ノ黒幕ヲ見セル為メ既ニ招待狀配布シ

S. 1.1.1.0 - 64

1709

487

48317

S. 1.1.1.0 - 64

1708

486

486

0316

ト云フ事ダカ民國總領事館ニハ招待状モ来ス  
除外シテ居ルラシイ甚ダケシカラヌト申シテ憤慨  
シテ居リマシタ

四、ソレカラ四、五日致シテカラ午前十一時頃デアツク様  
思ヒマスカ私カ總領事館ニ参リマシタ際總領事室  
ニ周ヲ訪問シマシタ其節因總領事ハ私ニ対シ松竹  
活動寫真館ニ於テ上映中ノ上海特急ハ民國侮蔑  
ノ活動デアル其他活動寫真館ノ看板廣告ノ如キ  
排華的ノモノガ多々アル日本ニ於テハ民國ガ排日ヲ  
為ストテ盛シニ攻撃スルモ日本ノ排華侮華ノ宣  
傳活動其他ニ依リ大々的ニ行ハレテ居ルデハナイ

カ此ノ現状ニ対シテハ吾々モ憤慨セザルヲ得ナイ  
此輩ハ國民衆ニモ知ラシテ置ク必要カアルト思  
フ是非民國新聞ニ日本ノ排華侮華ノ狀況ヲ  
報道スル様通信シテ吳レト頼マレマシタ

五、私モ豫テ神戸ノ活動寫真館等デ本國ノ為メ面  
白クナイ活動寫真ガ上映セラレ或ハ講演會等  
ニ依リ本國ガ侮蔑セラレツハアル事ハ宜シク存シテ  
居ツタノデアリマスガ私トシテハ此様ノ通信ハ日本  
ノ為メ好マザル處デアルトノ考ヘカラ本社ニ対スル  
通信ヲ差控ヘテ居ツタノデアリマスガ前ニ申述ベタ  
様ニ總領事カラ是非通信シテ吳レト頼マレタモ

0319

S. 1.1.1.0 - 64

488 1711

488

S. 1.1.1.0 - 64

488 1710

0318

ノデスカラ其頼マレタリ日總領事館カラ元日三  
日ノ日華新報社ニ赴キ同所テ日本ニ於ケル排  
華及侮華ノ狀況ニ就テノ原稿ヲ作成シ上海時  
報社ニ対シ三宮局ヨリ郵送通信ヲ致シタリデア  
リマス

六、私ガ排華侮華ヲ通信致シマシタ記事ハ上海時  
報外トシテ四月二日上海発行四月三日南京  
発行ニ掲載セラレ此報外ハ四月六日頃デアリマシタ  
ガ本社カラ私ノ許ニ送附シテ来マシタノデ私ハ同日  
午後四時頃デアリマシタカ此報外ヲ状袋ニ入レテ  
民國總領事館ニ持テ行キマシタシテ之ヲ總

領事ニ見セ手渡ス考ヘデアリマシタガ其時總領  
事ガ外出シ不在デアリマシタカラ耿副領事心得  
ニ手交シテ歸リマシタ

七、私ガ排華侮華ニ付通信致シマシタ内容ハ前ニ申  
シタ上海時報號外ニ掲載サレテ居タモノト相違  
アリマセヌ

八、(此時上海念壹年肆月貳日下午四時南京念  
壹年肆月參日上午七時報外ヲ示ス)  
問 只今示ス報外ニ日本排華ノ猛烈ト題シ日本ガ  
排華侮華運動ニ没頭シテ居ルカ如キ記事ガア  
ルガ之ガ前ノ通信セシモノ、記事掲載デアルカ

S. 1.1.1.0 - 64

491

1713

0321

S. 1.1.1.0 - 64

490

1712

490

0320

答 私が通信シタノヲ掲載シテアルモノニ相違アリマセヌ  
私が總領事館ニ持ツテ行キマシタ號外モ同様ノ  
モノデアリマス

九 私ガ日本ニ永ク在留シナガラス様ニ日本ノ為メ  
不都合ナ通信ヲ致シタト謂フ事ハ誠ニ恐縮ニ  
堪ヘマセヌ將來ハ充分慎ミ不都合ノ無イ様ニ  
致シマス

右讀ミ聞カセタルニ事實相違無キ旨ヲ申立  
左ニ署名捺印セリ

陳述人

鮑

振

青

印

昭和七年四月二十日

於兵庫縣警察部外事課

外事課勤務

司法警察官警部補 小倉益雄印

1140

情報部

亞細亞局

外務部第八一三號

昭和七年四月二十二日

兵庫縣知事 白根竹

内務大臣 鈴木喜三郎殿  
外務大臣 芳沢謙吉殿  
警視廳 榎本 殿  
大阪 長崎 各長官 殿

昭和七年四月廿八日 接受

286

上海事変ニ関スル排日印刷物送來ノ件

要  
在上海「平民」月刊社レヨリ元在神民團人ニ對  
シ「平民」ト題スル上海事変關係排日印  
刷物ニ部ヲ送附越シタリ、

1140

最近元神戸市神戸区北長狹通三丁目一六三ノ一箕  
易商永興公司在員鄭康餘ナル者宛ニ上海圓明  
園路二十三號 平民月刊社ヨリ「平民」第八卷第  
二期(第四期)ト題スル上海事変關係排日印刷  
物ニ部ヲ送附越セシヲ入手シタルガ其目錄及  
要譯左ノ如クニ有也  
右及申(通)報候也

S. I. I. I. O - 64

1717

0325

495

S. I. I. I. O - 64

1716

494

0324



平民 第八卷 第三册合刊 原漢文

(目録) (十五頁)

最後ノ勝利

上海中日血戦一月記

- (一) 日人ノ藉口
- (二) 第一夜ノ激戦
- (三) 第二日ノ激戦
- (四) 英米領事調停ノ無効
- (五) 戦雲再ヒ起ル
- (六) 中日ニ提出セル三國ノ條件

日本侵畧ニ際シ我軍ハ如何ナル事ヲナスベキカ、

- (七) 日海軍ノ吳淞砲撃
- (八) 我ハ空軍最初ノ戦功
- (九) 日軍戦略ヲ変更ス
- (十) 蘆蕪浜ノ血戦
- (十一) 我軍殲敵ヲ継続ス
- (十二) 日軍ノ最後通牒
- (十三) 日軍ノ終攻撃
- (十四) 廟行鎮ノ血戦
- (十五) 血戦ヲ継続センカタメ敵軍ハ援兵ヲ待チツマアリ
- (十六) 敵援軍到着セバ大戦開始サレン

497

496

S. 1.1.1.0 - 64

S. 1.1.1.0 - 64

1719 497

1718 496

0327

0326

平民 第八卷 第四期

(十九頁)

(目次)

- 小紅帽 (童話) 子賢
- 新八航海ノ故事 (小説) 時醒
- 悲哀ト奮闘 (小説) 訖老
- 救國歌 劉愛輝
- 平民笑話 時醒

498

- 一杯ノ茶
- 証 據
- 文法 課

S. 1.1.1.0 - 54

1720

498

0328

零々碎々

- 一 汚穢洗濯方法
- 二 易 難
- 三 驚クベキ統計 (煙草ノ賣上ケ高)

日本侵略ニ際シ我等ハ如何ナル事ヲナスベキカ

499

S. 1.1.1.0 - 64

1721

0329

日人ハ東三省占領後ニ更ニ上海ヲ攻撃シタ彼等ノ残虐ナル行爲ニ對シテハ只圍結シテ抵抗スルノ事アルノミカ一月廿八日夜開戦以來公共租界虹口一帶ハ完全ニ日軍ノ占領スル所トナリ幾十萬ノ良民ノ生命財産ハ日人ノ手ニ陥リ避難ノ

一 我等ハ團結シテ鞏固ナル團體ヲ組織シ外侮ヲ  
 防禦セヨ  
 二 我等ハ武装シ一トノ剣一挺ノ銃ト雖モ豫テヨリ  
 準備シ武装ヲ整ヘハルベカラズ  
 三 宣傳ニ努カレン全國ノ同胞ヲ覺醒セシメ奮闘ス  
 マン

同志等ヨ 敵ハ我等ノ眼前ニ殺到シタ一剎遅ル  
 レバ我等ノ生命ハ失ハル、デアロウ、我等ノ為メ  
 ニ速カニ覺醒シ共ニ國難ヲ救ヘ。

S. 1.1.1.0 - 64 501 1723 ( 0331

早カッタ者ハ危ク生命ヲ保ツ事ヲ得逃ケ遅  
 レタ者ハ活地獄中ニ生命ヲ奪ハレタ日人ハ銃  
 剣ヲ有スルモ憐ムベキ中國人殊ニ赤手空拳ノ  
 良民ハ故無クシテ彼等ノ為ニ逮捕セラレ無慘ニ  
 モ屠殺セラレ暗黒ノ北四川路ハ鮮血ニ染メラ  
 レタ 残虐ナル日軍ハ開北ヨリ吳淞ヲ侵シ吳  
 淞ヨリ江湾ニ入り其ノ行ク處家屋ヲ燒キ盡シ  
 人民ヲ皆殺シニシタ、彼等ハ領土ヲ侵畧セントセ  
 ルノミカ 我ガ民族ヲ滅亡セシメント企圖シテ居ル  
 ノデアル 如斯無道ナル侵畧ニ對シテ我等ハ今如  
 何ニ処スベキカ、此ノ生死ノ境ニ当面シテ

S. 1.1.1.0 - 64 500 1722 0330

救國歌 C調 4/4

一 滅亡ノ禍 危急ノ災ハ火ノ如ク 燃焼シツ、アリ、  
 讓歩モ 和平モ 今ヤ全ク 効果ナシ  
 速カニ 國ヲ 救ヘ スベテ 自己ノ 責任速カニ 抵抗セヨ、  
 四億萬 親愛ナル 同胞ヨ 一齊ニ 團結セヨ、  
 雪取ノ心 報仇ノ志 永遠ニ 牢記セヨ、  
 銃ヲ 取り 剣ヲ 磨キ 我ガ 國ヲ 守レ、  
 二 天下興亡ハ 匹夫ノ 責ニアルヲ 牢記セヨ、  
 努力ヲ 求メ 學ビ 共ニ 國難ヲ 負フマキ 事ヲ 忘レ、勿レ、  
 速ニ 國ヲ 救ヘ 責任ハ 重大ナリ 青年ヨ 退ク 勿レ、

502

S. 1.1.1.0 - 64

1724  
502

0332

四海ノ 人民有 志 同胞 極力奮闘セヨ、  
 國家繁榮ノ ため 國威 奮揚ノ ため 青年ヨ 努力セヨ、  
 國旗ヲ 高ク 懸ゲ 我ガ 疆域ヲ 守ル 青年ノ 志氣ハ 衰  
 ナリ、

七 日海軍ノ 暴敵砲撃

全カヲ 傾ケテ 開北ヲ 攻撃シ 失敗シタ 日海軍ハ  
 三日 午前一時 頃 軍艦ヨリ 吳淞砲台ヲ 攻撃シタ  
 且ツ 二十余台ノ 飛行機ヲ 以テ 砲台上ヲ 飛行シ  
 爆彈ヲ 投下シ 飛行機ハ 砲台上ヲ 飛行シテ 日艦  
 ニ 目標ヲ 通信シ 日艦ハ 此ノ 目標ニ ヨリ 我ガ 砲台ヲ

503

S. 1.1.1.0 - 64

1725  
503

0333

砲撃スルハゲアル幸ニシテ我が將士ハ死カヲ盡シテ反撃ヲ加ヘ敵艦ヲ攻撃シ一面高射砲ヲ以テ敵機ヲ砲撃シタ十二時頃敵艦四隻中一隻ハ艦ノ重要部ニ砲弾命中シ沈没シタ残り三隻ハ亦相當損傷ヲ蒙リツモ集中砲火ヲ以テ砲台ヲ攻撃シタ此ノ時敵機一台ハ高射砲命中シ寶山城南部ニ墜落シ塔乗者ハ惨死シタ

29/  
双方激戦ヲ交エ午後三時敵艦三隻ハ支ユル事能ハズ着弾距離外ニ逃亡シタ此ノ戦役ニ於テハ日海軍ハ呉淞砲台ヲ攻撃シテ失敗シ日駆逐艦一隻ハ沈没シ敵艦三隻ハ損傷シ飛行機一台

ハ射落サレタ

四日日海軍司令部ハ軍艦十三隻ヲシテ呉淞砲台包圍攻撃ヲ開始シ午前九時ヨリ午後五時ニ及ンダ激戦ハ時間日艦二隻ヲ損傷センメタ亦敵兵ノ一部ハ呉淞上陸ヲ企テタガ我兵ノタメニ撃退センメラレタ

十四 廟行鎮ノ血戦

日軍ハ屢々呉淞江湾開北等ヲ攻ムルモ之ヲ攻略スル事ヲ得ズ是ニ於テ植田司令ハ戦畧ヲ変更シテ蘆葦浜ニ沿ツテ廟行鎮ヲ攻撃シタ

504

8.11.10-64

505

1727

0335

8.11.10-64

504

1726

0334

廟行鎮ハ大場ニ接近シ真茹吳松間ノ要路デア  
 アル日軍ハ吳松我軍ノ後路ヲ截断スル目的デア  
 アリ其ノ計画タルヤ實ニ毒悪デアルセニ日早朝  
 日軍ハニ萬餘ノ新千ヲ以テ廟行ニ向ケ攻撃シ一萬  
 ヲ以テ江湾八千ヲ以テ八字橋ヲ攻メ最モ激烈ヲ  
 極メタ我軍ハセト激戦シ一面奇兵ヲ出シテ彼ノ  
 大隊ヲ包围シタル結果日軍ハ夫ヘズ後方ニ潰退シ  
 タ同時ニ八字橋天通奄ノ敵モ亦続々潰退シタ  
 殺サレタ敵軍ハ三千以上デアツタ敵軍ハ潰退後尚  
 ホ一部残軍ハ廟行附近ノ金穆宅ニ留リ頑強ニ  
 抵抗シ接軍ノ到ルヲ待ツタ久シカラズシテ果然接軍

292

數万人飛行機七十餘台ハ決死的勢ヲ以テ殺到シ  
 タ我軍ハセト血戦スル事三日ニ夜ノ久シキニ及ビ大  
 カ隊ハ死ヲ決シテ敵ヲ殺シタ其ノ間血肉横飛シ  
 奮勇肉搏シ眞ニ流血川ヲナシ死体野ニ滿チ大  
 部ハ敵軍ハ我軍ノタメニ倒レ死傷一萬以上ニ  
 達シタ敵ハ全能力ヲ擧ケタカ遂ニ降服シ得タ  
 ルモノハ只血肉ノ残骸ノミカ

(了)

507

S. 1.1.1.0 - 64

1729

507

0337

S. 1.1.1.0 - 64

1728

506

0336



1140

亞細亞局

第一課

區商二

特外 鮮 継 第七三六號  
昭 和 一 年 五 月 二 日

情報部

福岡縣知事

中山他之助

昭和七年五月五日接受

柳

山

山

警視 六 神 奈 川 愛 知 大 阪 兵 庫  
外 務 大 臣 鈴 木 喜 三 郎 殿  
大 臣 井 澤 謙 吉 殿  
京 都 六 島 山 口 長 崎  
各 府 縣 長 官 殿

北米在住支那人ノ排日状況ニ干スル件

国際汽船株式會社所有

汽船

白 合 丸 (六七八七屯)

如ハ北米各地寄港四月廿八日神戶ヨリ  
管下若松ニ入港セルヲ以テノ檢索シタ

1140

ル慶本船ガバ下マ運送通過ノ際機  
関部員(邦人)ガ当地土人ヨリ入午シタル  
モノト稱スル別添ノ如キ(内相閣下ノ現品  
添付)支那人發行救国日報其他ヲ發見  
セルヲ以テ参考送  
右及申(通)報候也

S. 1.1.1.0 - 64

509

1731

0339

S. 1.1.1.0 - 64

1730

508

0338

鈔譯

大中華民国廿二年二月二十六日  
救国日報

一、本報特電

中日西軍ハ茅蕩ニ在リテ大戦シ敵軍猛烈ニ攻撃セシモ我軍死守シテ譲ラズ、敵ハ我が村落ヲ古嶺スト傳フルルニ確証ナシ

一、馬占山刺殺ガルトノ談ハ確ナラス

東京ニテ五日電、馬占山ハ今日哈尔滨ヨリ齊々哈尔滨ニ至リ黑龍江省長ノ職ニ就ケリ、馬占山刺殺ガルトノ消息ハ大連方面ノ謠傳ナラン

一、寧國一致日本ハ武力侵襲ニ贊成スルモノニ非ズ  
上海ニテ五日電、合衆社駐東京分館主任ハ

最近東京ヨリ上海ニ送リシガ日本国内ノ情勢一就ヤ公乎ル視察ヲイヒ来レリ。謂フ所ニ依レバ日本ハ全ク侵襲ヲ主張シ居レドモ然シ一乘ノ自由克アリテ政府ハ武力上海侵襲ニ決シ甚シク贊意ヲ表セズ、而シテ大々殺、文治派及所謂海軍派ハ主張ハ若シ日本ノ威信ト作面ヲ保持スルヲ得バ侵襲軍隊ヲ速ニ撤兵セシムルニアリ。只大阪派ノ大高工業者ハ長江流域ノ高取引ノ利益ハ滿洲ニ比シ大ニシテ日貨抑留後大口取引ハ独リ美國ノ占ムル所トナリタルヲ以テ政府ニ對シテ強硬手段ニ出デテ軍事ヲ促シ居レリ、

一、日本政府ハ米国外務省ニ向ッテ、声明(倭國ハ米國ノ積極政策ヲ排ク恨トス)  
東京ニテ五日電、米國務卿スチムソン氏ノ公文ニ

511

S. 1.1.1.0 - 64 1733 511 0341

510

S. 1.1.1.0 - 64 1732 510 ( 0340



聞三日日本、外交要人ハ米口ハ海軍ノ大拡張計劃ヲ  
ナサントスト、聲明セシガ之等、詢テハ、遂ニ海軍擴張  
ニ觀ラレ、新ナル之、今外務省、向ノ公文ニ觀ルハ  
實ニ驚キ可キ事ナリ、スル、意ガ武力ヲ増シ  
テラニカ、極東ノ平和ハ一朝ニシテ覆ル可ク、即チ  
聲明ハ實ニ無細事ナリ、

512

一東三島ノ傀儡政府ハ近ク成立ス可キニ成リ、民ハ

遼陽ニテ、日軍ノ樹立スルノ計劃ハ、之ニ  
宣シタル新國家ハ、大同民國ト稱ス、共和政治ヲ  
採リ、六省ハ暫時臨時執政ト爲シ、滿洲ノ  
關係ニテ、任ズ、日軍ハ長春トス、此後三島ハ  
日軍ノ支配ヲ受ケ、遠キ永遠ニ中華民國ヨリ  
離脱セントス

8. 1. 1. 1. 0 - 54 1734 512

一北平將軍ノ氣、日寇ヲ拒ム  
上海ニテ、日寇ノ侵襲、十九路軍司令官蔡廷鍇將軍  
ハ本司令官、新國家ニ對シテ、誓シテ、日寇ヲ拒ム  
將軍曰ク、日軍ハ兵力優勢ニシテ、勇戦ニ善  
戦シ、日寇ヲ中、國領土外ニ驅逐セン。然シ、中國  
ハ素ヨリ平和ヲ主張スルモノニシテ、公共租界内外  
ノ生命財產ヲ妨害スルコト、以テ攻撃ヲトルモノナリ  
日下ノ新夜ヲ見ルニ、日軍ノ精銳、參戰シ居ラス、日軍  
江灣陣營ヲ攻撃シ、之ヲ破リ、日軍、上海附近ニアル豫備  
隊ハ、日軍ヲ敗退セシメ、現ニ夜不ニ在リ、豫備隊ハ  
應寧豫備隊、一隊ヲ派シ、日軍ノ援兵到着  
ノ際ハ、日軍ノ陣營ハ前ニ破リ、日軍トナシ、日軍  
ハ一兵一卒トナシ、日軍ノ敗退セシメ、日軍ニ誅  
ズ云々

止上

8. 1. 1. 1. 0 - 54 1735 513

513

0343